

平成27年中における自殺の状況

平成28年3月18日

内閣府自殺対策推進室
警察庁生活安全局生活安全企画課

平成27年中における自殺の状況 目次

第1章 平成27年中における自殺の概要	1
第2章 平成27年中における自殺の内訳	3
自殺者の年次比較(表1～表4)	4
年齢階級別、原因・動機別自殺者数(表5)	6
職業別、原因・動機別自殺者数(表6)	7
年齢階級別、職業別自殺者数(表7)	8
都道府県別自殺者数(表8～表12)	9
年次別自殺者数(補表1-1)	14
年齢階級別自殺者数の推移(補表2-1)	15
年齢階級別自殺死亡率(補表2-2)	16
職業別自殺者数(補表3-1)	17

第1章

平成27年中における自殺の概要

1 総数(表1関係)

平成27年中における自殺者の総数は24,025人で、前年に比べ1,402人(5.5%)減少した。
性別では、男性が16,681人で全体の69.4%を占めた。

2 年齢階級別自殺者数(表2関係)

「40歳代」が4,069人で全体の16.9%を占め、次いで「50歳代」(3,979人、16.6%)、「60歳代」(3,973人、16.5%)、「70歳代」(3,451人、14.4%)の順となっている。

3 職業別自殺者数(表3関係)

「無職者」が14,322人で全体の59.6%を占めて最も多く、次いで「被雇用者・勤め人」(6,782人、28.2%)、「自営業・家族従業者」(1,697人、7.1%)、「学生・生徒等」(835人、3.5%)の順となっており、この順位は前年と同じである。

4 原因・動機別自殺者数(表4関係)

原因・動機が明らかなもののうち、その原因・動機が「健康問題」にあるものが12,145人で最も多く、次いで「経済・生活問題」(4,082人)、「家庭問題」(3,641人)、「勤務問題」(2,159人)の順となっており、この順位は前年と同じである。

注)平成19年に自殺統計原票を改正し、遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を3つまで計上することとしたため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数(17,981人)とは一致しない。